

学校教育目標	生き生き きれいな学校
目指す学校像	「通ってよかった、大谷小！」と児童が思える学校
重点目標	1 基礎学力向上及び児童の学びを深める「個別最適な学び」「協働的な学び」の一体的充実(学びの質の向上に関する取組) 2 児童のWell-beingの基盤となる教育環境の整備(子どもの発達や心のサポートに関する取組) 3 児童のエージェンシーを育むコミュニティ・スクールの実現(地域とともにある学校づくりに関する取組) 4 安心・安全な教育環境の整備(教育環境の整備に関する取組) 5 教職員の資質向上と「働きやすい職場」「やりがいのある職場」環境の構築(教職員のキャリア形成に関する取組)

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学びの質の向上に関する取組

心の子どもの発達やサポートに関する取組

学校地域とともにある学校づくりに関する取組

教育環境の整備に関する取組

教職員のキャリア形成に関する取組

学校自己評価		学校自己評価					学校運営協議会による評価		
年度目標		年度評価					実施日 令和 年 月 日		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等	
1	<現状> ○各教科について、さいたま市学習状況調査では市平均を、全国学力・学習状況調査では、埼玉県及び全国の平均を下回っている。 ○市学習状況調査結果から「主体的に学習に取り組む態度」に関する肯定的回答率が、学年により差がある。 ○基礎学力向上に向けた学校課題研究に取り組んでいる。 <課題> ○個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実に係る取組と基礎学力向上に向けた取組を一体的に捉え、研究を推進する。	①個別最適な学びと協働的な学びの一体的推進 ②児童の実態に即した基礎学力向上に向けた研究の推進	①学校課題研究に関連して授業研究会を4回以上実施し、研究成果を組織で共有する。 ②学びのポイント「じ・し・や・く」を軸とした授業改善に取り組む。 ③カリキュラム・マネジメントを通して、教科横断的な学びと地域の教育資源の効果的活用を推進する。 ①さいたま市学習状況調査等の結果を受け、基礎学力向上に向けた手立て等を明らかにした研究を推進する。 ②ICT機器の効果的・効率的活用を推進するとともに、ドリルパークやスタデジサブリを授業や家庭学習で効果的に活用する。 ③学力向上カウンセリング研修を実施し、児童の実態に即した授業づくりについての理解を深める。	①授業研究会を計画的に実施することができたか。 ②「学びの指標」において、半数の項目が昨年度の数値を上回っている。 ③今年度の教育実践等をもとに、次年度の教育課程を整備することができているか。(年度末までに) ①②学校評価の学習に係る質問において、肯定的回答「よくあてはまる」が昨年度を上回ったか。(R7:94%) ③学力向上カウンセリング研修を実施し、授業改善に資することができたか。					
2	<現状> ○R6市学習状況調査「学校に行くのが楽しい」について、市平均を4つの学年が下回っている。 ○同調査「自分には、よいところがあると思う」について、市平均を3つの学年が下回っている。 ○いじめ撲滅に向けた取組の充実を図っている。 <課題> ○児童が安心して生活ができる環境の構築に向けて、引き続き、児童理解及び組織的に対応・支援する体制の強化に努める。	①児童一人ひとりへのきめ細やかな生徒指導・教育相談に向けた校内体制の充実 ②安心安全な居場所づくり	①スクールダッシュボードを活用して、児童の状態把握に努めると共に、変化が見られる児童については、積極的に声を掛け情報を共有する。 ②生徒指導等に係る対応は、学年を中心に「事実確認→指導→保護者への連絡」等を迅速に行い、関係機関との連携を密にしながら組織で対応する。 ③欠席状況及び児童観察、アンケート等を受けて積極的にケース会議を実施し、学年、管理職、専門職等、組織的に対応する。 ①大谷小が児童にとって居心地の良い場所となるように、自分事として友達のことを考えることの大切さ等を学級指導や朝会等で繰り返し指導する。(共感的人間関係) ②Sola るーむ等を有効活用し一人ひとりの特性に即した支援を推進する。	①「おはようメーター」を計画的に活用し指導等に活用しているか (R7:70%)。 ②学校評価における、いじめ・人権教育に係る肯定的評価が昨年度を上回ったか。(R7:91%) ③組織で円滑に情報を共有し、関係機関とも連携しながら適切に対応することができているか。 ①②③学校評価の相談に係る質問において、児童及び保護者の「よくあてはまる」が昨年度を上回ったか。 ①学校評価「通ってよかった大谷小」の質問について、「よくあてはまる」が昨年度を上回ったか。(R7:79%) ②ボランティア等の協力を得て、Sola るーむが計画的に運用できている状態になっているか。					
3	<現状> ○コミュニティ・スクール設置から4年目となり、協働体制の基盤が整っている。 ○学校運営協議会の熟議に児童も参加し、代表委員の活動報告等を行った。 <課題> ○CSにおいて、学校課題等の解決に資する活動の一層の推進を図る。 ○児童にエージェンシーと参画意識を育む学校運営協議会について研究を進める。 ○CSの機能等について一層の周知を図る。	①児童の参画意識を育む児童参画型コミュニティ・スクールの実施 ②児童及び保護者、地域への積極的な情報発信と協働体制の基盤強化	①自分達の学校や生活・地域をよりよくしていくとする視点を大切にした児童参画型コミュニティ・スクールの在り方について研究を進め、実践する。 ②講話朝会等を通して、コミュニティ・スクールの役割や機能等について説明し、児童の理解を深める。 ①コミュニティ・スクールについて、学校だけでなく、懇談会等を通して保護者、地域への一層の周知を図り、協働体制の基盤づくりに努める。 ②児童の活動の様子や教育活動等について、積極的に情報を発信する。	①学校運営協議会において、課題解決のための視点をもって児童が熟議に参加し、協働活動等につなげることができているか。 ②学校評価のコミュニティ・スクールに係る児童への質問で肯定的回答が87%を上回ったか。 ①学校評価のコミュニティ・スクールに係る保護者への質問で、肯定的回答が90%を上回ったか。 ②学校評価の情報提供についての保護者の肯定的回答「よくあてはまる」が85%を上回ったか。					
4	<現状> ○施設老朽化に伴い、雨漏り等の被害が多発している。 ○令和7年度は、学校施設の瑕疵による事故やアレルギー対応事故は起きていない。 <課題> ○児童の安全確保の観点から、早急に修繕が必要な箇所が存在する。	①安心安全な教育環境の構築に向けた組織的取組の一層の推進 ②アレルギー対応の確実な実施と安全教育の充実	①月例安全点検、管理職による毎日の構内巡視等を通して施設・設備の点検を組織的・計画的に実施する。 ②管理職と事務職員、学校と市教委と連携し、計画的に修繕依頼を行う。異常等が認められた場合は即時対応する。 ①食物アレルギー対応について、管理職・栄養職員・担任のトリプルチェックを行う等、組織で対応する。 ②避難訓練や交通安全教室等、計画的に実施し、成果や課題を整理する。	①②施設・設備に係る安全点検を計画的に実施するとともに、必要に応じて施設課等と連携し、迅速に対応することができたか。 ①食物アレルギー対応について、組織的に対応することができているか。 ②安全教育に係る取組を計画的且つ適宜迅速に実施することができたか。					
5	<現状> ○職員は、熱意をもって業務に取り組んでいる。 ○職員の経験や所属、役割に基づいたOJTが進められている。 ○時間外在校等時間は減少傾向にある。 <課題> ○子どもの学びと教師の学びを一体的に捉え、教師同士が学び合う場を創出する。 ○キャリア形成の土台をなす「やりがい」と「ゆとり」のある職場環境づくりを、一層推進する。	①キャリア段階に応じた受講奨励等の実施* ②「やりがい」と「ゆとり」のある職場環境の構築	①指導力向上等に向け、当初面談等を活用してキャリア段階に応じた受講奨励を行う。 ②推薦研修等について、職員のキャリア段階に応じて声を掛け、受講等を奨励する。 ①目標・目的をもって業務を遂行することができるように、人事評価シートに基づいた業務の進捗状況等を確認する。 ②教師の学びは児童の学びの相似形をキーワードに、教師が学び合う機会を設ける。 ③働き方改革を推進し、児童と向き合う時間や自己研鑽の時間を確保する。	①②職員が、指導力向上等に向けて計画的に研修を受講することができているか。 ①②③職務にやりがいや満足感を感じている教職員の割合が、90%を上回ったか。 ②学び合う機会を通して、個々の教授技術を共有することができたか。 ③ゆとりある職場環境の構築に向け、働き方改革を推進し、負担感の軽減につなげることができたか。					

